

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年12月号 通巻24号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

ダンゴムシ軍団、参上！

これが分解者パワーだ！



(左)タヌキのフンに集結したダンゴムシ。(右)は拡大写真。画像の外にもまだまだダンゴムシがいて、数百頭はいるようだ。このダンゴムシたちはどうやってフンを見つけたのだろうか。また、どれだけ遠くからやって来たのだろうか。

今回は久しぶりにためフンの話です。2010年度は東京都23区の某所で継続的にタヌキのためフンの調査を行っています。ためフンの内容物を調べることによって、都会のタヌキの食性を解明することが目的です。ところが困ったことに、必ずしも毎回フンの回収ができるわけではありません。特に暑い時期はためフン場に行ってもフンの痕跡すら見つからないことがほとんどでした。

ためフンが消えてしまう理由のひとつは、夏はフンの分解が速いからと推測できます。逆に冬になると分解が遅くなるためフンは長期間残りやすくなります。

群がる大集団

2010年6月下旬、暑い中を私はためフン場のひとつに向かって歩いていました。ここのためフン場は枯れ葉が積もった林の中にあります。そのため、フンがあればそこだけ黒くなるので遠くからでも発見しやすくなっています。その時も黒いものが

見えたので、「今日はフンがあるぞ！」と喜びながら近づいていきました。ところが、近づいてみると様子が変わります。そこでは何か小さなものが大量にうごめいています。よくよく見るとそれは…ダンゴムシの大集団なのでした！ダンゴムシぐらいで驚く私ではありませんが、これだけ大集合していると別です。ダンゴムシ軍団がたかっているのは間違いなくタヌキのフンですが、既に形はくずれています。まだ新しいフンのようで、2日以内のものだろうと思われました。分解という目に見えない細菌がやってくれることのように思われがちですが、ダンゴムシだって立派な分解者なのです。これはまさに分解の現場なのです。

「分解者」は食物連鎖を考える時に必ず登場しますが、「生産者(植物)」「消費者(動物)」に比べるとイメージがわきにくい存在です。分解者にはいろいろな生物が含まれます。細菌類のように目に見えないものの他に、菌類(キノコやカビなど)、ミミズ、ヤスデ、昆虫ではハエ

類(幼虫も含む)、糞虫(甲虫類の一部)などなどがあります。地味で目立たない存在ですが、分解者も生態系には欠かせない存在です。

ダンゴムシには勝てない…

ダンゴムシがたかっていたこのフン、本当なら持ち帰って内容物を調べなければならないのですが、既に形がくずれてしまっているし、ダンゴムシを取り除くのも大変なので、回収はあきらめざるをえません。ああ、貴重な研究材料なのに…。残念無念。

ダンゴムシは落ち葉をよく食べるそうですが、タヌキのフンもなかなか美味なようですね。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>